

No. 1161

アイモの旅

—山梨・石和—

四方を山に囲まれた甲府盆地、温泉と果実の町、山梨県・石和町は今桃の花が満開、町は“紅いじゅうたん”を敷きつめた様に美しい彩りを見せています。

石和はまた錦鯉でも有名、庭先の池では稚魚が元気にはねています。笛吹川のすぐ近く、桃園は花見客で一杯、地元の主婦や子供たちの邦楽演奏が花の美しさを一層ひきたてます。

全国にも有名な武田信玄公の武者行列。ポニーを使った少年少女の武者行列は人気の的、可愛い戦国の武将がしばしの旅情をなぐさめてくれます。

懐しき大道芸

江戸の情緒を今も残す浅草、その昔浅草寺をはじめとする寺や神社の境内には祭や縁日ともなると多くの大道芸人がやってきたという。立体紙芝居とも呼ばれる立板子の大道芸を秘かに守り続けている村井さん。

東京麻布善福寺の縁日に招かれて16年ぶりに立板子の芸を披露する。浅草でバーの経営をする村井さんは浅草の町と古い昔の歌が好きだという。

五十年ぶりに復活した東京麻布・善福寺の縁日、町を愛する土地っ子の願いが実ったものだ。角兵衛獅子をはじめ全国でもめったに見られなくなった昔なつかしい大道芸人たちが一堂に集りその技を競った。

ヌンチャクの妙技、見ごとなたちさばきの居合切り。

村井さんも立板子を持ってやってきた。この日の出しものは「金色夜叉」

大正琴の音色にのせた村井さんの名セリフに観衆もしばし懐しき昔にひたる。

時代の流れの中で徐々に消えようとしている大道芸それでも人々の心の中では生き続けていた。だが村井さんたちで大道芸は終りなのかも知れない。